



NO. 960
 発行
 2018年
 10月5日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 加藤 秀夫
 編集責任者
 教 宣 部

組織強化・拡大へ

第71回定期地方大会
 開く2018年9月



第71回定期地方大会が9月22日に10時より地本会議室で開催されました。
 代議員は、10時現在、11名中8名の出席で大会が成立したことが宣言されました。
議長に石川代議員選出
 大会は、代議員、職協代表など全員の発言がありました。職場の問題点、組織拡大や安全問題など発言がありました。



藤井副委員長の開会あいさつがあり議長選出では石川代議員が選出されました。
 執行委員長のあいさつ、来賓あいさつがあり、方針案の提案や財

政関係の提案などありました。
 東日本本部から渡辺執行委員が出席しあいさつがありました。
 来賓では、日本共産党・県委員会・田中副委員長、新社会党・岡村書記次長、退職者組合から儀藤事務局長からそれぞれ激励のあいさつがありました。



儀藤事務局長
 あいさつ
 退職者組合・儀藤事務局長からあいさつがありました。



はじめに、元地本委員長の守橋さんのじん肺の取り組みについて御礼を申し上げる。今年の3月に決着した。JR東日本に対して起こしたが、じん肺が発生するような作業内容、環境ではないと言って認めない。
 しかし、職場は国鉄当時から変わっていない。労災認定が厳しい中、鉄道運輸機構へ業務災害の訴

えをして業務災害が認定された。報告集会は5月に開催した。これからも、この闘いは重要な。じん肺の取り組みは継続して進めていく。



年金問題の取り組みについては広範な運動を取り組んでいく。
 喫緊の課題である組織拡大について、退職者組合は高齢になっている。新しい組合員の加入について、退職組合も拡大について後方支援していく。
 これからも国労新潟地本と一緒に協力し合ってがんばっていく。

加藤委員長 あいさつ



この1年間非常に大きなことがあった。貨物の17年ぶりのペア300円があったが現状を考えると、この回答では納得しない。改善するために努力していく、がんばっていく。

JR東日本は、この1年間まさかのことが発生した。東労組の組織が瓦解し3万人強の組織がほとんど脱退した。組合組織加入率では65%以上が未加入者となった。

この期に組織拡大のチャンスと考え取り組みを進めてきたが地本として具体的な指示が出せなかった。

職場では36協定について、職場代表選挙が実施されている。情報の共有など取り組みを強化していく。

今地本定期大会が成功することを祈願してあいさつとする。



裏面につづきます。代議員の発言内容を中心にまとめました。少しでも参考になればと思います。宜しく願います。



国労東日本本部 渡辺執行委員 あいさつ

東労組の問題がマスコミを通じて報道された。32000名が未加入になっている。東労組は現在12000名の組織になっている。脱退した動きについて、会社の動きが早くなった。宣伝物や情報についてスピーディーに伝えられている。

本社交渉～スピーディーとスピードだと言っている。発展するためには進めなければならぬことを、進めていく。会社の言いなりで施策が進められている。

グループ会社・施策について～研修など多く開催されている。会社が一気に入り込んできた。会社人間になっていくこと。ノーマン運転など。社員はどうあるべきか、どう発展していくのか。

車掌の職場～東労組は指導車掌に指定されていない。東労組から脱退した人は指定されている。国労も同様に指定されている。労働組合は必要ないと会社は訴えている。組合が無い実態。未加入者への国労加入の訴えをして拡大行動の取り組みを強化していく。拡大は第一の課題だ。

貨物会社～自然災害で大きな打撃があった。貨物の運休は大きなマイナスだ。社員は絶対乗り切る。経常利益を上げるために社員や家族を犠牲にしている。新人事賃金制度は賃金を低く抑えるもの黒字化へ進むためだ。構造矛盾や物流対策など取り組んでいく。国交省への交渉を強化していく。貨物の学習会の開催を求めていく。

8月定期大会関係～乗務員勤務の見直し・手当での削減について改善要求について交渉へ。これから地方への交渉となる。

労使間の取り扱いの改訂～組合事務所の便宜供用について支部も認めた。非管理駅については2名以上の組合員が入ればA3のつづりを配置する。宣伝物を掲示していく。

代議員から各職場の取り組みなど活発な発言をお願いし明日から組織拡大へ取り組んでいこう。



財政関係について
質疑
財政関係の提案があり、それについて質疑がありました。
中越事務所の処理問題について中越分会の議論経過はどうなっているのか。
答弁、事務所の今後について議論してきたが最終的に処分する。組合



事務所の便宜供用について、会社員の減少と老朽化、台風などで壊れ他に迷惑がかかるため。新たに事務所を検討中だ。

との交渉が先ではないか。解体工事についてJRとの交渉でつめていくこと。会社の言いなりではどうか。じっくり話し合っていくことだ。



みんなの意見

職場の状況～メンテについてノータッチだ。3キロの受け持ちは変化が無い。2020では何も発生しない。本指導になったらモニタリングがある。巡回の回数、期間が少なくなり機械的な判断が多くなる。モニタリング、採石、雑草について

て正確なデータは無い。要員について厳しい状況にある。
酒田では、東労組から脱退し、ほとんどが社友会に入っている。掲示板は所長の承認がないと掲示できない。社友会は社員ではあるが組合ではないので社員を守れない。そのことが組織拡大へつながっていくのではないが。
雪害・昨シーズンは例年の2倍の積雪だった。パートナー会社は要員がいないので直轄で出勤した。地元管内、冬季体制が取れる状況にして欲しい。



職場は冬季は大変な状況だった。構内除雪ができない。以前は除雪機が構内に留置してあった。それで除雪した。
構内作業は委託されている。電気機関車は片パン運転、委託会社では除雪用のデイスコン棒の取り扱いができない。区長へは要請している。
委託会社への要請については団交で上げる予定だ。職場は要員が足りない。仕業検査は60歳以上の高齢者が多い。代務は技官が対応している。65歳以上の雇用について区長から話があった。65歳以上の労働条件について話していく。

